



表者から謝辞及び今後の決意が述べられました。

第三十五回熊本医学・生物科学国際シンポジウムを開催して

熊本大学先端医学研究機構

特別招聘教授

Guojun Sheng

令和元年十一月十一日、熊本大学工学部百周年記念館において、「第三十五回熊本医学・生物科学国際シンポジウム」が開催されました。

本シンポジウムは熊本大学大学院医学



教育部が毎年開催している国際シンポジウムです。国内外の著名な研究者により講演及び研究発表が行われ、熊本大学の教職員及び学生が最先端の研究成果に接する機会の一つとなっています。

今回は、第九回 EMT International Association Meeting との共同開催となりました。EMT (Epithelial-Mesenchymal Transition : 上皮間葉転移) は、上皮細胞がその細胞極性や周囲細胞との細胞接着機能を失い、遊走、浸潤能を得ることで間葉系様の細胞へと変化するプロセスであり、発生だけでなく創傷治癒や癌の

浸潤、転移等の病態にも深く関与し、近年研究が活発に行われている分野の一つです。

EMT International Association Meeting

は、癌や発生生物学、細胞生物学分野の研究者により二年に一度開催されている国際研究集会で、これまでカナダ、ポランド、アメリカ、シンガポール、スペイン、オーストラリアで開催され、日本での開催は、今回が初めてとなりました。当日は原田信志熊本大学長の開会挨拶で始まり、熊本大学の教職員、学生及び国内外からの研究者約百五十名が参加しました。「Disease EMT」、及び「Epithelial morphogenesis and EMT」をテーマに、

十二件の講演が行われました。続くポスターセッションにおいて、約四十件の発表が行われました。また、レセプションにおいては須田年生国際先端医学研究機構長が挨拶を行うとともに、参加者は相互交流を深めました。

なお、この EMT International Association Meeting で議論された内容をもとに、国際先端医学研究機構 Guojun SHENG 特別招聘教授が、Nature Reviews Molecular Cell Biology に、優れた総説論文を発表しました。

令和元年度熊大病院群卒後臨床研修プログラム研修医育成事業報告

熊本大学病院総合臨床研修センター長

大屋 夏生

平素より熊大病院群卒後臨床研修プログラムの研修医の指導・育成にご協力頂き、誠に有難うございます。

令和元年度の熊大病院群のマッチ者は二〇名（採用者一三名）であり、平成三〇年度の三一名と比べて大幅に減少しました。一方、熊本県全体としての令和元年度のマッチ者数は八八名（採用者七六名）となり、平成三〇年度の一一〇名と比べると二割減となりました。これらの数値を見比べると、令和元年度は、熊大病院群のみならず熊本県全体としてもマッチ者数が少ない年であり、その傾向は熊大病院群においてより顕著であることが示されます。その原因として、県内出身者が比較的少ない学年であったという事情に加え、初期研修先として大学病院が敬遠されつつあるという全国的傾向も考えられます。一方で、初期臨床研修プログラムの修了後、令和二年四月に熊本大学病院基幹型の専門医プログラムに採用された専攻医は一〇〇名にのぼり、